

RS232Cレベル変換資料

【5ピンケーブルイラスト修正版】
 REV.1.0.2.0 (100618) 資料は破棄し
 本資料をご利用下さい

書き込み I/F 回路図 RS232C ↔ TTL (自作用)

下記回路を参考の上、変換ボードやケーブル等を作成して下さい

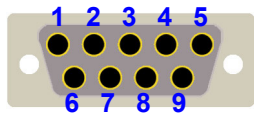
■PC接続側 (RS232C)

結線図の「TO PC」側の信号が、【表 1】のピン番号のピンに接続するように Dsub コネクタに配線して下さい。

【表 1】

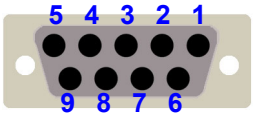
ピン番号	信号名
7	RTS
8	CTS
3	TXD
5	GND
2	RXD

Dsub コネクタ ハンダ面側



注意

Dsub コネクタのピン番号は、PC側とはんだ面側ではピン番号が反転しますのでご注意ください。



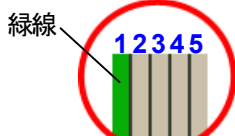
Dsub PC 接続側

■CPUボード(HSB-R8C/M12)接続側 (TTL)

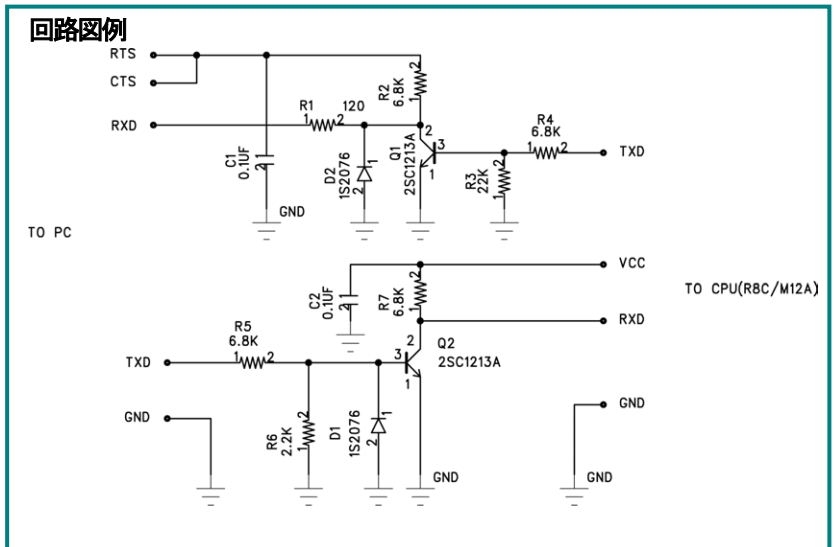
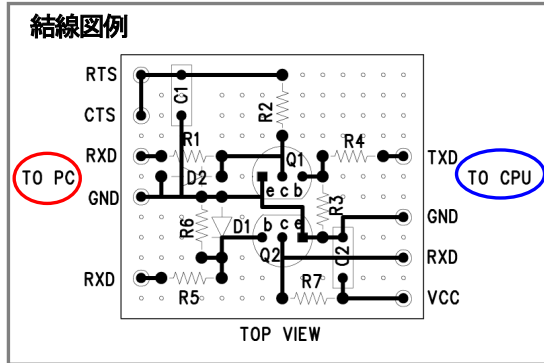
結線図の「TO CPU」側の信号が、【表 2】のピン番号のピンに接続するように付属ライターI/Fケーブルを配線し加工して下さい。

【表 2】

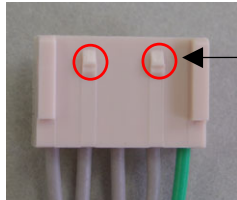
ピン番号	信号名
3	TXD
5	GND
4	RXD
2	VCC



ライターI/Fケーブル先端
 ※1番ピンは未接続です



【付属ケーブルのひと工夫】

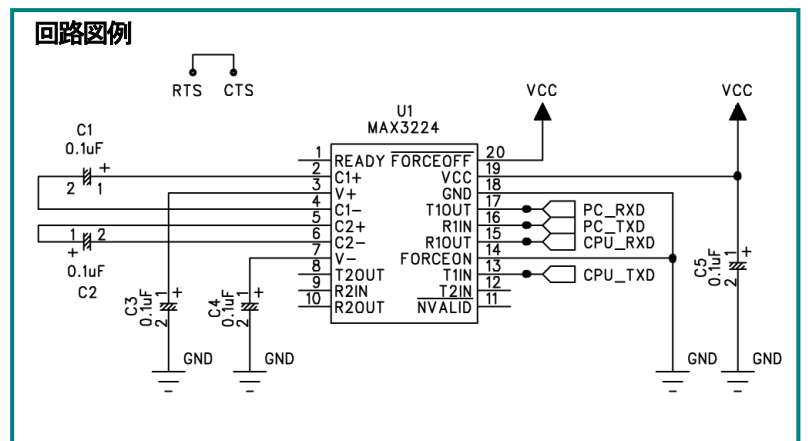
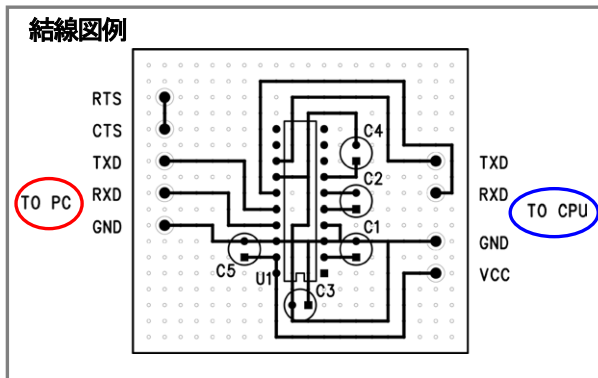


ライターI/Fケーブル(5ピン)の裏側にうある突起

※そのままお使い頂いてもよろしいのですが、基板側のオスコネクタからの取り外しの際、少し抜けにくくなっています。カッター等で突起を削ってお使い頂くと、抜けやすくなります。

ADM3222・MAX3222・MAX3224・MAX3225 使用時の場合

ケーブル加工は上記「書き込み I/F 回路図
 RS232C ↔ TTL (自作用)」をご参照下さい



RS232Cレベル変換資料